

## 市民活動を支える環境整備を！

### 子ども食堂の 安定的な運営場所の確保を要望

子ども食堂は社会的な認知度が上がり、さまざまな企業による支援も広がっています。活動費用については民間・葛飾区の助成金とともに以前より充実してきていますが、活動場所については安定して確保することが未だ難しい状況と聞いています。

子ども食堂はすべての子どもの居場所であり、誰もが集える居場所としても果たす役割は大きく、子どもをめぐる問題は地域の活動団体と協働ですすめていくことが重要と考えます。そこで、子ども食堂の定期的な活動の場として区の施設を利用できないか質問しました。はじめは、特定の団体の優遇にあたるような対応をとることは難しいとの返答でしたが、重ねて質問したところ、国の「地域子供の未来応援交付金」※を子ども食堂に利用できるようにしていく、という回答を引き出すことができました。子ども食堂の活動が地域に広がるよう、運営を安定的に継続できる後押しとなる施策を求めました。

※ **地域子供の未来応援交付金**：地方公共団体が、子ども食堂や学習支援といった子どもの居場所づくりなどの事業について、直接又はNPOなどの民間団体に委託して行う場合に活用できる交付金。

## 利用者の声を反映してもっと使いやすく！

### 子育て支援のさらなる充実のために 支援事業の改善を要望

多胎児だけでなく子どものいる家庭が利用できるベビーシッター事業の利用範囲拡大が予定されています。

一方で多胎児家庭の家事や健診等の付き添いを支援する家事サポート事業の予算は、利用が少なかったことから、令和3年度の3,681万円から令和4年度は491万円と大きく減額になりました。

どちらの事業も、孤独になることもある子育てを支援し、育児の負担軽減につながる有益な取り組みであるため、多くの子育て家庭に活用されることが望まれます。もっと気軽に利用してもらい、安心して子育てできるよう、多胎児をもつ保護者から利用についての課題や問題点を聞き、当事者にとってより利用しやすい事業にしてほしいと要望しました。

## 2050年温室効果ガス排出量ゼロをめざす葛飾区、 今の計画で大丈夫?!

### 学校のZEB化を要望

葛飾区は、2050年までに温室効果ガス（CO<sub>2</sub>）の排出量実質ゼロをめざす「ゼロエミッション※かつしか」を2019年に宣言しました。達成のためには構造的な転換が必要であり、区は行政として実効性のある施策を講じることはもちろん、事業者として実践することが求められます。また、新築時や改築時のZEB※化は温室効果ガスの排出量を大幅に削減できる重要な機会であり、このチャンスを逃しては目標の達成は困難です。

区では毎年1校以上のペースで学校の改築計画をもっており、今後も多くの学校が改築対象となります。ここでの取り組みが大きな違いになると思い、学校改築時の環境面への配慮とエネルギー消費の削減割合について質問しました。区からは、照明のLED化、複層ガラスの使用、太陽光パネルの設置について説明がありましたが、残念ながら数値目標の提示や、ZEB化推進というはっきりとした回答は得られませんでした。

子どもたちの未来を明るいものにするためにも、これから建てる学校は2050年のまちの一部であるということを忘れずに、ZEB化に取り組んでほしいと要望しました。

### 多胎児ママに支援事業の使い勝手について聞きました

家事サポートを利用しようとしたけれど、コロナ禍で使えず残念でした。

ベビーシッター事業は双子の場合100時間で50万円にもなる利用料が無料なので、とても助かります。でも先払いなので、親から一時的に借りがなくてならず大変。

家事サポートは事前に手続きが必要だけど1時間300円なのは使いやすいです。

申請手続きのために区役所まで行くのは難しいです。地区センターなら頑張れば行けるんだけど…。

2022年4月より申請手続きがインターネットでもできるようになりました！

## 中身が大事！子どもたちの声が反映されないままの 条例案には賛成できません

### 子どもの権利条例についての 議案には反対しました

今議会に子どもの権利条例が議員提出議案として提出されました。子どもの権利を守る条例には葛飾の子どもたち、子どもに関わる人たちの声を反映させる必要があると考えます。残念ながら、今回提出された議案にはその過程がみえないため反対の立場をとりました。

2021年6月に制定された「江戸川区子どもの権利条例」では、小学生・中高生のワークショップを行い、さらに日本語学級、特別支援学級、不登校の子どもたち、LGBTQの方にもヒアリングを実施するなど、子ども自身の声を集めることを大切にして進められました。これまで子どもの権利条例について、制定の考えを示していなかった葛飾区においても検討を始めようとしています。

子どもたちと一緒に幸せや権利について学び、考える機会をつくり、なにより子どもに権利があるという当たり前のことを保障する条例をつくっていきましょう。

## 疑わしいものは食べさせたくない！

### ゲノム編集食品を 学校給食に使わないよう要望

国内では高ギャバトマトや可食部増量真鯛（マッスル真鯛）のようなゲノム編集食品が流通し始めていることから、遺伝子組み換えおよびゲノム編集食品の学校給食への使用について質問しました。区の回答は、葛飾区の学校給食では遺伝子組み換え食品については原則使用しない方針であるが、ゲノム編集食品については国の方針に従うというものでした。

国は、ゲノム編集は自然界で起こる突然変異と同じで、ゲノム編集された食品であることを証明する方法がないとして、安全性検査を行わず表示義務も設けていません。自治体が独自の方針をもって対策をとらない限り、知らないうちに口にしてしまう可能性があります。葛飾区でも遺伝子組み換え食品と同様に、ゲノム編集食品を学校給食に使わないよう、また、ゲノム編集トマト苗を全国の福祉施設および小学校に無償提供する計画※についても受け取らないよう要望しました。

※ **ゼロエミッション**：廃棄物を一切出さない資源循環型の社会システム。企業活動や市民生活から排出される廃棄物を、リサイクルや排出量削減を通じて限りなくゼロに近づけること。最近ではとくに、温室効果ガスの排出ゼロに向けた取り組みをいうこともあります。

※ **ZEB（ゼブ）** / Net Zero Energy Building：快適な室内環境を実現しながら、建物で消費するエネルギーをゼロにすることを目指した建物のこと。エネルギー消費量を完全にゼロにすることはできませんが、省エネで使うエネルギーをへらし、創エネで使う分をつくることで、消費量を正味（ネット）でゼロにします。

※ **ゲノム編集**：従来の遺伝子組み換えのように他の生物の遺伝子を挿入する方法ではありませんが、遺伝子を人為的に操作して生命を改造する技術であることに変わりはありません。特定の遺伝子を破壊することで、可食部の増量や一部の栄養素が多いなど、人間にとって魅力的な特徴を持つようつくられています。交雑による生態系への影響や食べ続けることによる安全性はわかっていません。

※ 開発元の企業がゲノム編集トマト苗の無償配布を障がい児福祉施設・デイケア福祉施設は2022年、小学校は2023年に開始すると発表し、自治体に対して受け取り拒否を要望する運動が各地で起こっています。

お手数ですが  
63円切手を  
貼付のうえ  
投函ください

1 2 5 0 0 5 4

東京都葛飾区高砂8-21-1

沼田 たか子 行

よろしければご記入ください

お名前：

ご住所：

電話番号：

メールアドレス：